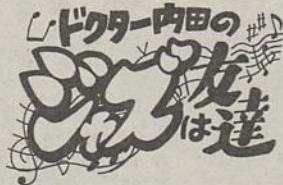


先ず、一九七七年に行われたスイスの「モントルー・ジャズフェスティバル」のライブがシリーズでレジャーディスカ化され、その紹介とプロモーションを兼ねた催しが、

ジャズ評論家の油井正一氏を迎えてヤマハホールで開かれた。僕は久しぶりに油井さんとゆっくお話ししたくて名古屋まで出かけたが、終わる間際まで会場に入るのを遠慮した。

これはまあ僕の思い過ごしなんだろけれど、今ではヨーロッパ随一だれもが認めるこのフェスティバルを日本で紹介したのが僕自身であった上に、当初スイスから毎年送られてくるテープを、NHK-FMから放送する度に解説にあたっていたという縁があったから、油井さんがお話しにくいんではないかなんて考えたからだった。



△(21)▽

ルマンレース中止

ではどうしてそんな縁が生まれたのか。それは今考えても奇妙なほど、全くの偶然からだった。

あれは六八年、三度目のヨーロッパ旅行に出かけた時だ。前にもお話ししたように、自分でもレースに参加していた僕は、一度ぜひ「ルマン二十四時間レース」を見たいと思いつき、六月初旬に日本を飛び立つた機中のこと。パイサーが気の毒そうに思いがけない知らせを伝えてきた。「フランスの学生運動が過激化してとても不穏な情勢だぞうです。パリのオリリー空港は閉鎖して入国できないし、ドクターお目当てのルマンのレース、

お目当てのルマンのレース、ほら、ここに中止と書いてありますよ」うーん、はてどうしたものかと思案にくれながら、見るとはなしに渡され

奇妙な縁から生まれた スイスへのジャズ旅行

た新聞に目をやると、おや、ジャズという文字がある。えーと、六月十二日から五日間、スイスのモントルーで第

とになっている。話のたねに寄っていつか。よし、そうと決まったらジュネーブで降りちまおう。

静かな高級保養地

空港で、運よく前回泊まっ

した距離があるからワーゲンでも借りて毎日通うことにしよう。

歴史に残るライブ

六月十一日、下見を兼ねてモントルーまで走る。ホテルを出て湖とは逆方向に向かうとすぐハイウエー。速度制限なしだ。三十分も走ると、レ



ドクター内田が訪れた「モントルー・ジャズフェスティバル」の1968年と1970年のプログラム

下見をすませた後、古びたたずまいの街並みを通り抜けてさらに走るとすぐ、湖面に影をおとす古城「シオン」がその姿を見せる。その神秘的な美しさは、後にこのフェスティバルから生まれた数々の傑作レコードのジャケットの傑作レコードのジャケットの写真などで、すっかりおなじみになる景観であった。

ターコンチネンタルホテル」がとれて幸先よしだ。近代的なこのホテル、ジュネーブ湖の眼下に見下ろす高台にあって眺望よし、設備よし、料理も最高で文句ない。地図で見るとモントルーまでちょっと離れた湖畔の「カジノ」(公営マン湖沿いのくねくねした道を走り入り、さらに三分の道りでひっそりしたモントルーの街に着く。前日まで静かな高級保養地なのだ。フェスティバルの会場に充てられた湖畔の「カジノ」(公営